

貴重な経験に感謝：1 か月間の北京滞在

派遣国名: 中華人民共和国
受入機関: 中国科学院植物研究所
派遣期間: 2011.9.19~2011.10.18

私は9月19日~10月18日の1か月間、中国科学院植物研究所でイネ種子の組織学的解析に携わりました。研究所は植物園内にあるため、週末になると多くの観光客で賑わっていました。滞在中は、研究所内にある大学院生寮で寝泊まりをし、食堂で食事をし、ほぼ研究所(植物園)内で過ごしました。園内は花や木等植物はもちろんのこと、ネコ、犬、リス等の動物も多く見られ、とても気持ちの良い環境でした。



研究棟



研究所内：寮から研究棟への通学路

私は、イネ種子に含まれる2種類のタンパク質の局在部位を明らかにするために、①イネ種子の固定及び包埋→②切片作製→③免疫染色→④顕微鏡観察を行いました。最も苦戦したことは、②の切片作製です。それは、切片作製の際に薄っぺらの両刃を使っていたからです。いつも使っているナイフを持ってくれば…と後悔しましたが、友人が言ってくれた「達人は筆を選ばず」という言葉に励まされ、ペラペラナイフで切片切りに挑戦しました。始めは全く使いこなせません

でしたが、帰国前にはサクサク切れるまでに上達していました。切片作製に関しては、かなり技術向上できたのではと実感しています。



切片作製用両刃

顕微鏡解析結果から、これまでに不明であったことが明らかとなり、イネ貯蔵タンパク質グルテリンの細胞内輸送機構において、新たな情報を提供することができました。1か月間の結果報告会では、中国語で発表するという今までかつてない貴重な経験をすることができました。自分の話している中国語が伝わっているのか心配でしたが、先生方とお昼ご飯を忘れるくらい熱いディスカッションができ、とても有意義な時間となりました。

1か月間、北京で生活し、話す言葉も中国語。心も体も中国に染まったような感じでした。研究室の学生は皆明るく親切で、一緒にいてとても楽しい存在でした。一緒に寮に集まって、みんなで1品持ち寄りのパーティーをしたり、近くにある香山へ山登りにも行きました。研究面においても、お互いの意見を言い合ったり、実験手法等を教えあったりしました。互いに切磋琢磨し合える仲間が出来たことも私にとってとても嬉しい事です。

最後になりましたが、このような貴重な機会を提供して下さったJSPSと私を快く受け入れて下さった曲楽慶先生、そして派遣の手続き等でお世話になりました戦略企画係の藤原さんに心から感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



ラーメンメンバーと新研究棟前にて